# 第４節　養液土耕栽培の導入に当たっての留意点

## １　導入時の留意点

### （１）土壌の物理性

養液土耕栽培でも保水性，排水性，通気性の良い土壌が適し，特に，孔げきの多い，物理性に優れた土壌が望まれる。また，良質の有機物の施用等により物理性を改善することも必要である。

### （２）用水の水質

用水中にごみや砂，塩類，鉄イオンなどを多く含んでいると，チューブの目詰まりや生育不良の原因になるので注意する。

### （３）システムの選定

システムの選定時には，作物は何をつくるのか，栽培時期はいつかなどを考慮し，自分の経営に適した装置を導入する。

## ２　導入後の留意点

### （１）チューブの目詰まり

養液土耕栽培の利点は，かん水や施肥の省力化なので，余裕ができた時間で作物やチューブをよく観察する。用水や肥料由来の沈殿物や作物の根がチューブに侵入することで目詰まりするので注意する。

### （２）施肥量

基肥・追肥体系の土耕栽培の施肥量に比べ，20～40％くらい減肥となる場合が多い。

しかし，養液土耕栽培で連作した場合，地力が消耗することも考えられるが，現在のところ詳しいことは不明である。

### （３）土壌診断，栄養診断

養液土耕栽培では，作物が必要な時に必要な量の養分を与えることができるが，実際に作物の必要な養分量を正確に推定することは難しい。土壌中や作物体内の養分状態を知るために，生土容積法や作物の葉柄汁によるリアルタイム診断法などを活用する。

＊第１章第１節きゅうり，第２節トマトの栄養診断及び養液土耕栽培を参照する。